

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 ①【SNS 利用解禁に対応するための職員研修】 ②【生徒会によるSNS 利用方法に関する討論会】	本校では人権的な配慮からここ数年SNS利用を禁止した。しかしながら、日常生活における連絡手段やSOSの発信の手段として使用される現状を踏まえて生徒会を中心にSNS利用に向けて話し合う場を設定することとした。 ① 生徒会主催の討論の前に職員間で中学生がSNSを活用する際の留意点を確認するために「インターネットによる人権侵害」をテーマに個人に対する誹謗中傷やプライバシーの侵害などの人権問題の実態や対応に関する知識を深める研修を実施した。 ② 校則に関するアンケートの実施→SNSに関する議題の抽出→各クラスでの意見交換（学活）→各クラス代表による意見発表→生徒会中心の討論会
	成果 ① SNSなどのインターネット上の人権侵害やトラブルの未然防止などについて共通理解を図ることができた。本校のSNSの使い方やルールの見直しやトラブル対応について考える機会となった。 ② 生徒がSNSにおける人権侵害について議論し考える機会をつくることができた。話し合いの結果、SNSは家族間のLINE以外は使用しないというガイドラインを作ることができた。
	課題 ① SNSの普及や時代の変化に合わせた対応や指導の統一が必要であると感じ、定期的に研修を実施していきたい。 ② 目立ったトラブルがなかったものの人権意識が低いやりとりが報告されたため、継続的な話し合いやSNSに限らず人権意識を高める手立てをとる必要がある。
2 実践2 【性的指向・性自認（性同一性）の研修】	本校では自分の性的指向について戸惑いや不安を感じている生徒がいる現状を踏まえて、性的マイノリティへの理解促進に関する動画を職員は職員研修で、生徒は道德の時間を活用して視聴した。差別やいじめの実態や当事者による実体験の話を聞き、LGBTの人々を取り巻く問題や現状の理解を図った。
	成果 性的指向・性自認（性同一性）に関する正しい理解をする機会となった。普段何気なく使っている言葉や相手に対する態度を振り返り、偏見や差別のない言動をしようとする気持ちを育むことができた。
	課題 生徒が社会の一員として誰もがありのままで受け入れられ、自分らしく生きることができる社会を実現しようという気持ちを醸成するところまで至らなかった。継続的に教科や活動の中で取り上げて、正しい理解を深め、他者への意識を向ける機会を設けていきたい。